

Ⅲ インターネットによる 情報収集

松 本 良 治

経 営 情 報 学 部 教 授

III. インターネットによる情報収集

本章では、パソコンとインターネットを利用する環境を前提に、インターネット利用による情報収集の具体的な方法や留意点についてまとめている。インターネット利用による情報収集はその対象範囲の広さ、収集速度の速さにおいて極めて便利な方法である。官公庁による白書の統計情報や公的図書館での文献検索、あるいは最新のニュース情報収集などが居ながらにして可能である。

例えば、“平均株価”をキーワードにして情報検索をすると、その算出方法から最新の値をたちどころに知ることができるばかりでなく、経済情勢との関連で詳しい解説記事を読むこともできる。

このように論文やレポート執筆の過程で、初期の情報入手から内容充実のための補強材料の収集など、インターネットは資料収集の大いなる武器といえる。本章では、便利ではあるが一方では注意が必要なインターネット利用による情報収集の留意点、インターネットでの情報収集の具体的な方法、そして整理の仕方について順に解説する。

1. インターネット利用による情報収集の留意点

便利なインターネットではあるが、ここでいくつか留意しなければならない点をあげる。

● 情報収集源を明らかにしておく ●

インターネット上で公開されている文章や、図表、画像、イラストなどあらゆる情報には著作権があるので、収集した情報を参考にしたり、論文中で引用したりする場合は、参考文献の記述と同じように、収集した情報の入手源、出典を明記する。この場合、該当ページの URL (Uniform Resource Locator) とページのタイトル、および収集時の年月日を次のように付記する。

「ページのタイトル」、発行元 (URL)、収集時年月日

例えば、図 1 のページを参照した場合は、次のように出典を明記する。

例 「日経 500 種平均株価」、日本経済新聞社

(http://www.nikkei.co.jp/nkave/stockindex/500_calc.html)、2007 年 8 月 28 日



図 1

「日経 500 種平均株価」、日本経済新聞社
(http://www.nikkei.co.jp/nkave/stockindex/500_calc.html)
2007 年 8 月 28 日

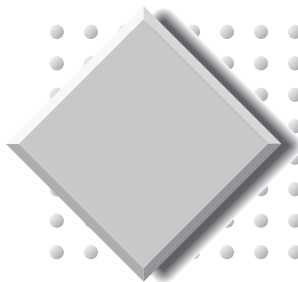
● 収集した情報の質は自らが責任をもたなければならない ●

インターネット上では個人や民間のレベルで公開されているページも数多い。情報検索の結果、公開元が必ずしもよく分からないページに行き当たる場合がある。それらの情報は、その出所が必ずしも明らかでない場合もあるので、参考・引用時には注意が必要である。

すなわち、その情報が何かの引用で、またその元がさらに別の情報の引用であったりして、元々の情報源が定かでない場合も多く、そうした情報の質には少なからず問題があると考えねばならない。このような場合は、それを参考にしたり、引用したりすることを避けた方がよく、どうしても引用したい場合は自らが責任をもたなければならない。

● 情報は常に更新されることに留意する ●

インターネットで公開されている情報は、常に更新されている。その情報そのものが世の中から消え去ってしまっている場合もある。論文を構成する重要な論点として情報を引用したりする場合は、特に注意しなければならない。



2. インターネットでの 情報収集の具体的な方法

インターネットであらかじめその情報源が明らかになっているものや、よく利用するページについてはその URL をブラウザのブックマークやお気に入りに登録しておくとう便利である。

情報のあり場所が分からない場合、情報検索サイト、あるいは“情報”への入口という意味のポータルサイトが、インターネットでの情報収集には欠かせない。代表的なサイトに以下のものがある。

主な情報検索サイト

- ① Yahoo! : <http://www.yahoo.co.jp/>
- ② Google : <http://www.google.co.jp/>
- ③ goo : <http://www.goo.ne.jp/>
- ④ Excite : <http://www.excite.co.jp/>
- ⑤ infoseek : <http://www.infoseek.co.jp/>

● 検索方法 ●

情報検索サイトを利用した具体的な検索方法は、知りたい情報をキーワードにして検索する。まず、検索サイトのひとつである Google にアクセスすると、次のような画面が表示される。そこで知りたい情報のキーワードを所定のところにキーボードから入力する。図 2 は Google の初期画面を示している。



図 2 情報検索サイトの初期画面

例えば、ここで“経済成長率”という言葉キーワードにしてその関連情報を得たい場合、その言葉を指定すると、図 3 のような画面が表示される。これはキーワードによって検索された関連情報をもつサイトの一覧である。

さらに、知りたい情報の範囲を絞り込むときに、いくつかのキーワードを同時に指定しておくと、そのキーワードを含む情報を検索することができる。例えば、図 2 の画面で、“経済成長率”と“白書”を同時に指定すると、図 4 の画面が表示され、その一覧をみると、官公庁発行の白書で、経済成長率に関する記述のあるものが関連情報をもつサイトとして表示されていることが分かる。

以上、Google というひとつの情報検索サイトの簡単な利用例を示したが、検索方法の詳細については、Google だけでなく、それぞれのサイトで説明画面を用意しているので、それぞれのところを参考にしてもらいたい。

なお、Google の検索で、日本語の情報源を求めるときはその初期画面で、「日本語のページを検索」の箇所にチェックマークを入れて指定しておくと検索対象が日本語のページに限定される。

図3

キーワードによって検索された
関連情報をもつサイトの一覧



図4

複数のキーワードを指定して
それらの情報をもつサイトを
一覧表示している



(注) マイクロソフト社のブラウザであるIE（インターネットエクスプローラ）を利用している場合、図5のようなGoogle ツールバーをブラウザの画面の中に常に表示させ、いつでも情報検索を利用することができる。Google では、その設定ソフトをサイトを通じて無料で配布している。図1～4ではそのツールバーが既に挿入されている。



図5 Google ツールバー

3. 図書検索

● 国立国会図書館の図書検索 ●

インターネットを利用して、すでに出版されている書籍や、発表されている論文があるかどうかを知ることができる。

例えば、国立国会図書館 (<http://www.ndl.go.jp/>) の「資料の検索」、「NDL-OPAC 蔵書検索・申込システム」、「一般資料の検索／申込み」の機能を利用して、日本の経済成長に関する図書がないかを検索するためには、図 6 のように「日本」と「経済成長」そして、2000 年以降に発行されたものなどという条件で検索すると、その結果、図 7 のように指定されたキーワードを含むタイトルをもつ図書が一覧表示される。

ここでも、具体的な検索方法の説明画面が用意されているので、操作は難しくない。



図 6 日本の経済成長に関する図書の検索

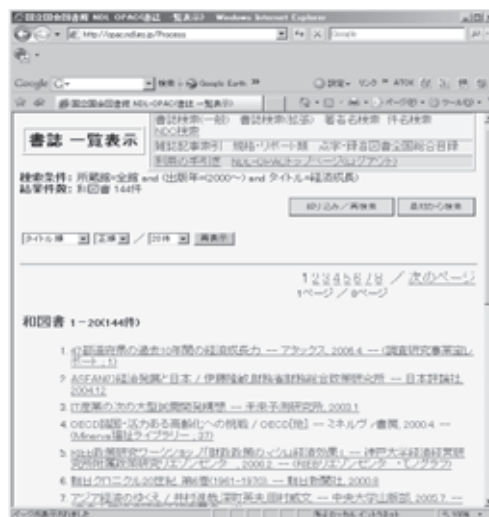


図 7 日本の経済成長に関する図書の検索結果

●大阪経済大学の蔵書検索●

大阪経済大学の図書館のページにアクセスし、「本をさがす」の「図書館・研究所の本」をクリックすると、図書館、中小企業・経営研究所、日本経済史研究所の所蔵資料を検索することができる。

例えば、前述の操作で表示される図8の画面で、“情報通信”を入力して「検索」をクリックすると、図9のようにその検索結果が一覧表示される。身近な場所で、実物をすぐに手にすることができるので、おおいに利用してもらいたい。

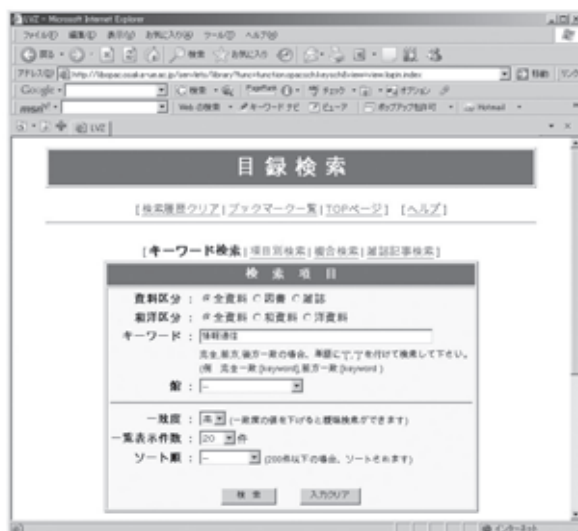


図8 大阪経済大学図書館のページでの蔵書の検索

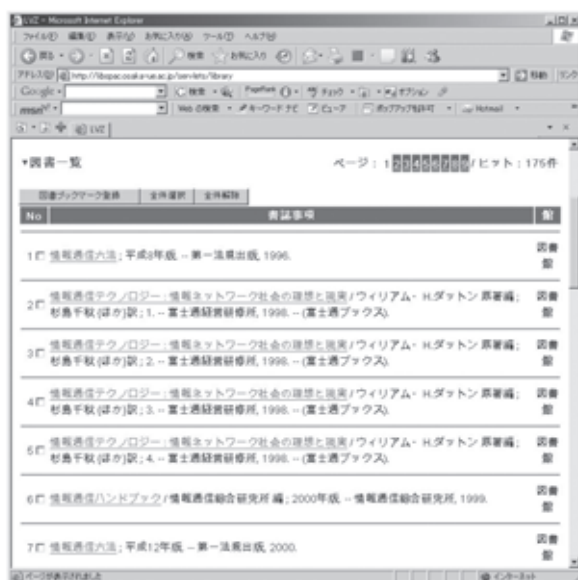


図9 “情報通信”に関する蔵書の一覧

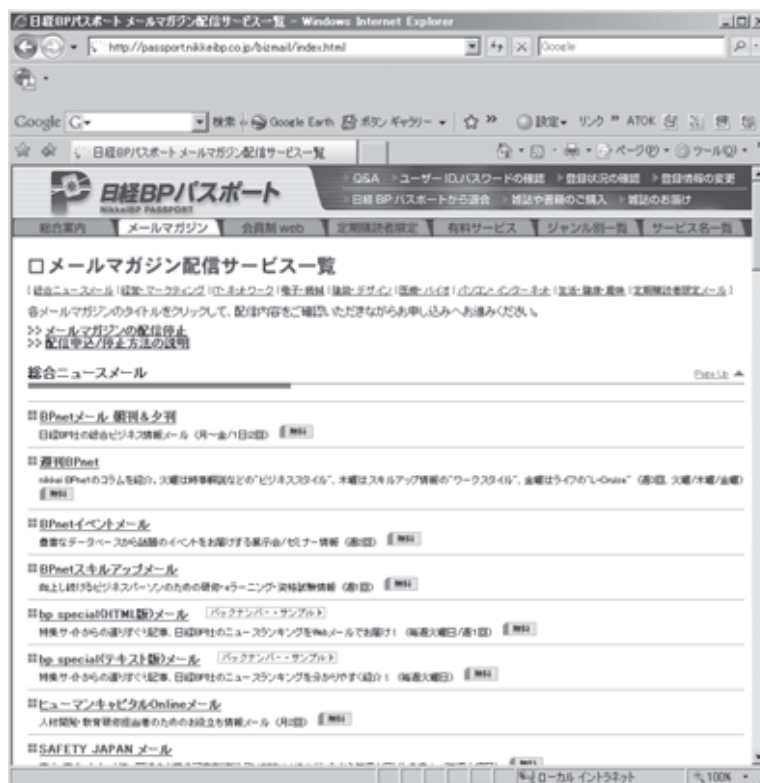
4. メールサービスの利用

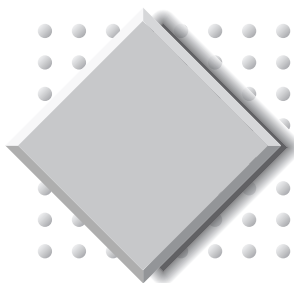
日頃から、自分の関心のある分野の情報を収集する手段として有効なのが、メールマガジンとも呼ばれるメールサービスである。

これは、あらかじめ自分のメールアドレスを登録しておくことで、関心のある分野の情報が電子メールとして受け取れるものである。有料のサイトもあるが、無料で登録できるサイトも数多い。

例えば、日本経済新聞社が運営しているメールサービス (<http://passport.nikkeibp.co.jp/bizmail/index.html>) には図10に示すように、いくつもの分野が用意されている。これを利用するには利用者の情報や多少のアンケートに答えるなどの手続きが必要になるが、簡単に利用登録ができる。

図10 メールサービス





5. 収集資料の整理と管理

インターネット上で公開されている情報は莫大である。必要と判断した情報は、パソコンのコピー&ペースト（複写と貼り付け）機能を利用して、該当部分をクリップボードに一旦複写し、利用しているメモ帳や Word などの文書に貼り付けることにより、簡単に取り込むことができる。このとき、先に述べたように、その情報収集源を明らかにしておくことはいうまでもない。

しかし、大量の情報をその都度、コピー&ペーストで取り込むのはそれなりに時間と労力を要するので、取りあえず、どこにどんな情報が在ったかをメモをとる感覚で記録しておくと便利である。

そのための例として、デジタルメモとマイポータルの作成について説明する。なお、先に述べたように、インターネットで公開されている情報は常に更新されており、その URL さえ変更されることがあるので、それなりにメンテナンスしておく必要がある。

● デジタルメモの作成 ●

ここでは、デジタルメモという呼び方をするが、単なるメモでも備忘録でもよい。

図 11 はデジタルメモの一例を示している。情報源の分野と具体的な情報源およびその URL からなっている。どういう情報がどこにあるかをブックマークやお気に入りとは別に用意するもので、自分なりに気の付いたことやコメントを付記しておけば、より有用なものになる。

◆ 経済統計情報

①世界銀行 <http://www.worldbank.org/>

②日本銀行 <http://www.boj.or.jp/>

③内閣府 経済社会総合研究所 <http://www.esri.cao.go.jp/>

図 11 デジタルメモの例

● マイポータルの作成 ●

自分のホームページに必要な情報源を作っておくのが、ここでのマイポータルである。
図12は、マイポータルの例を示している。

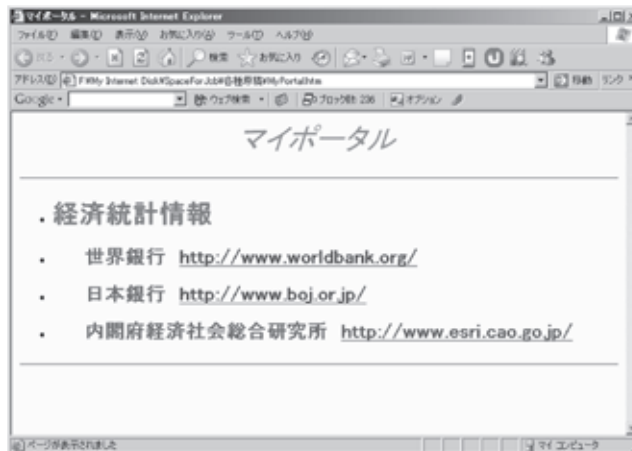


図12 マイポータルの例

このようにあらかじめホームページに自分にとって必要な情報源を載せておけば、ブラウザが起動されている状態から、インターネットを通じてそのまま必要なページを見ることができる。

